

【定期予防接種】

◎定期予防接種については、通知時期になりましたら予診票等を郵送します。

通知時期を過ぎてから転入された方や、通知が届いていない場合は、保健センターへご連絡ください。

個別接種（委託医療機関で実施）

予防接種名		接種年齢・接種方法等			通知時期
		接種対象年齢	回数	間隔	
ロタ ※1	ロタリックス (1価)	出生6週0日後 ～24週0日後 まで	2回	27日以上の間隔を おいて2回接種	生後1か月になる 月の月末に、各予 診票（ロタ、ヒブ、 小児用肺炎球菌、 B型肝炎、4種混 合、BCG、麻しん 風しん1期、水痘） を同封して通知
	ロタテック (5価)	出生6週0日後 ～32週0日後 まで	3回	27日以上の間隔を おいて3回接種	
ヒブ	2か月～ 5歳未満	〈2か月～7か月未 満で接種開始〉 初回：3回 追加：1回	初回：27日以上の間隔を おいて3回接種 追加：初回3回接種後、7か 月以上おいて1回接種		
			〈7か月～1歳未 満で接種開始〉 初回：2回 追加：1回	初回：27日以上の間隔を おいて2回接種 追加：初回2回接種後、7か 月以上おいて1回接種	
			〈1歳～5歳未 満で接種開始〉1回		
小児用 肺炎球菌	2か月～ 5歳未満	〈2か月～7か月未 満で接種開始〉 初回：3回 追加：1回	初回：27日以上の間隔を おいて3回接種 追加：初回3回接種後、60日 以上おいて生後12か 月を過ぎてから1回接 種		
			〈7か月～1歳未 満に接種開始〉 初回：2回 追加：1回	初回：27日以上の間隔を おいて2回接種 追加：初回2回接種後、60日 以上おいて生後12か 月を過ぎてから1回接 種	
			〈1歳～2歳未 満で接種開始〉2回	60日以上の間隔を おいて2回接種	
			〈2歳～5歳未 満で接種開始〉1回		
B型肝炎※2	12か月未満	初回：2回 追加：1回	初回：27日以上の間隔を おいて2回接種 追加：1回目から139日 以上の間隔で1回接種		
4種混合 (ジフテリア 百日せき 破傷風 ポリオ)	3か月～ 7歳6か月未満	初回：3回 追加：1回	初回：20日以上の間隔を おいて3回接種 追加：初回3回接種後、6か 月以上の間隔を おいて接種 ※標準的には1年～1年半の 間隔を おいて追加接種		

BCG	12か月未満	1回	※標準的な接種年齢5か月～8か月	
麻しん 風しん 混合	第1期 1歳～2歳未満	1回		
	第2期 年長児に相当する年齢 (5歳以上7歳未満で小学校入学前)	1回		4月上旬に通知 (年長児に相当する年)
	第5期 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性	1回		4月上旬に通知
水痘	1歳～3歳未満	2回	3か月以上の間隔をおいて2回接種	生後1か月になる月の月末に、各予診票を同封して通知
日本脳炎	第1期 6か月～7歳6か月未満	初回：2回 追加：1回	初回：6日以上の間隔をおいて2回接種 追加：1期初回2回接種後、おおむね1年後に1回	2歳11か月になる月の月末に通知
	第2期 9歳～13歳未満	1回	1期終了後、9歳過ぎてから接種	6月上旬に通知 (小学4年生)
	日本脳炎特例措置について ①平成14年4月2日～平成19年4月1日までに生まれた方：20歳未満までの間に、1期と2期の不足回数分を定期として接種できます。 ②平成21年4月2日～平成21年10月1日までに生まれた方：9～13歳未満までの合い8打に、1期不足分を定期として接種できます。			
二種混合 (ジフテリア 破傷風)	11歳～13歳未満	1回		7月上旬に通知 (小学6年生)

子宮頸がん※ <sup>3</sup>	小学6年生～高校1年生の女子 (キャッチアップ接種：平成9年4月2日～平成18年4月1日生まれの方で3回接種未完了の女子)	3回	サーバリックス(2価)： 初回1か月後に2回目、初回1回目から6か月後に3回目  ガーダシル(4価)： 初回から2か月後に2回目、初回1回目から6か月後に3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中1～高1の方には7月までに通知</li> <li>・キャッチアップ対象者には8月に通知</li> </ul>
---------------------	--	----	--	---

※1 ワクチンは液体で、経口による接種を行う「飲む」ワクチンです。ワクチンは2種類ありますが、効果や安全性には差がありません。特別な事情がない限り、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。標準的な初回接種期間は、生後2か月～14週6日後までです。

※2 B型肝炎の母子感染予防のために、抗HBS人免疫グロブリンと併用してB型肝炎ワクチンの接種を受けた場合は健康保険が適用されるため、定期接種の対象とはなりません。

※3 令和3年度の国による専門家の会議でHPVワクチンによる子宮頸がん予防の有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められ、令和4年4月から積極的な接種勧奨が再開されました。また、サーバリックスとガーダシルを混在させて接種した場合の安全性や効果などは分かっていないため、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。